

たまにはオーストリアちっく パート3

ウィーンで趣味に溺れる日々

[<< ウィーン交響楽団 + ケント・ナガノ | main | ロッテルダム管弦楽団 + ミハイ
ル・タタルニコフ >>](#)

GATES ショート・オペラ

0

| 2013.11.17 Sunday | [現代音楽](#) | [23:59](#) | - | - | by [はっば](#)

午前中にウィーン交響楽団に行っています。
そちらから、あるいは、そちらだけ(笑)読みたい方は
[ここ](#) からどうぞ。

Palais Kabelwerk 2013年11月17日 19時30分~23時10分

GATES / Kurzoperen

1. Teil von "sirene Operntheater"
GATES/GÄSTE! - Vier Operellen
Theorie und Praxis (Prolog)
Karussell (Mirela Ivičič, Redek Knapp)
Zu früh! (Intermezzo)
Axi (Jaime Wolfson, Antonio Fian)
Idealsybiose (Intermezzo)
Inventur (Fernando Riederer, Brigitte Falkner)
Culture Clash (Intermezzo)
Monadologie XXIV ... The Stoned Guest (Bernhard Lang, Lorenzo da Ponte)
Bitte laden Sie mich ein! (Eiplog)

Ensemble Platypus (指揮 François-Pierre Descamps)
Johann Leutgeb, Clemens Kölbl, Theresa Dlouhy
Ingrid Habermann, Richard Klein
Intermezzi : Kristine Tornquist

2. Teil von "progetto semiserio"
GATES - Zwischen?Raum
4 Musiktheater-Stücke zur Durchlässigkeit sozialer Grenzen

Seelentore (Jörg Ulrich Krahe, Susanne Felicitas)
Wärme (Tamara Friebel, Nathalie Latham)
Gates as my asshole (Oliver Weber, Nurkan Erpulat)
BILL - eine installative Raum-Klang-Oper
(Jorge Sánchez-Chiong, Thomas Jelinek, Thomas Wagensommerer)

Andreas Jankowitsch, Andrea Tiziani, Kaoko Amano, Paul Schwenester,
Levent Bakirci, Ingrid Habermann
Asim Al-Chalabi, Berndt Thurner, Rwei-Ran Wu a.k.a. Agly
Roland Shueler, Oliver Weber, Lars Mlekusch

calendar

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

<< May 2026 >>

PR



★コンタクト・メール★
メールはこちらへ

プログラミングに1ク
リックお願いします

selected entries

GATES ショート・オペラ
(11/17)

categories

現代音楽 (280)
ウィーン・フィル (452)
ウィーン交響楽団 (535)
ウィーン放送交響楽団
(155)
トーンキュンストラ
(190)
オーストリアの他のオーケ
ストラ (65)
外来オーケストラ(ヨー
ロッパ) (644)
外来オーケストラ(その

カーベルヴェルクは昔の工場跡に作られた
現代的な大型団地で
オーストリア人は好きそうだが
私は、ああいう無国籍な団地はちょっと（以下省略）

ただ、大型団地なので文化センターがある。
普通、日本だったら田舎の団地の文化施設なんて
アレものだろうが（詳細省略）
このカーベルヴェルクでは、かなり斬新な事もしている。

今回はウィーン・モデルン現代音楽祭の一環で
ショート・オペラの上演。

とは言え、プログラム見たら
全部で3時間とか書いてある上に
念の為に係員に聞いたら
まあ、終わるのは、夜の23時半くらいかね・・・

って、そんなに簡単に言わんでくれ。
地下鉄なくなったら帰れなくなる（汗）

さて、ショート・オペラが次から次なので
全部の関係者の名前を書くが大変。
カッコの中に作曲家と脚本、あとパーフォーマーの名前くらい。
それ以外の情報は省いた。
読者諸氏もあんまり興味がないだろうから、適当である。お許しあれ。

前半はシレーネ・オペラ劇場の
「客」を主題にした4つのオペラ。
その間にインテルメッツォが挟まる。

舞台装置が面白い。
椅子とテーブルと本棚とレコードプレイヤーが一体化した家具には
皿の上に猫まで乗ってるし
お婆ちゃんが座るソファは
座っているように見えるんだけど
実は歌手が立っていて、歩くと移動するようになっていたり（笑）

老人が1人で暮らしているところに
若い飛んでるカップルが（スゴイ衣装（笑））やってきて
歓迎したのは良いのだが
全部、若い2人の好みに変えられていってしまうという
ブラック・ユーモアの後に

花束を持った男性が
まだ早過ぎる、と待っている間に
花束を包んだ紙の始末に追われて
とうとう時間に間に合わず、遅過ぎる、というインテルメッツォ。
（指揮者が鐘に合わせて舞台上の時計を変えていく（笑））

続く Axi は
近所の家庭を覗き見している老婆と若い女性が
泥棒に入られた事に気がつかず
ただ、覗き見た先に若い女性の彼氏が
他の女性を訪ねていった場面を見てしまい
訪ねた先の浮気相手の女性が、実は泥棒の彼女で
失恋したもの同士が・・・というコミカル・オペラ

ウィーン国立オペラ座
(356)
ウィーン劇場 (98)
フォルクス・オパー
(127)
その他のオペラ・オペレッ
タ (43)
バレエ・ダンス (637)
コンテンポラリー・ダンス
(227)
仕事 (35)
美術・建築 (27)
予告編 (99)
グルメ (26)
オーストリア生活 (198)
小旅行 (68)
CDやDVDとインターネット
(51)
演劇 (35)
生意気なので無視して下さ
い (41)
キャンパスライフ (19)

archives

May 2026 (3)
April 2026 (33)
March 2026 (35)
February 2026 (31)
January 2026 (28)
December 2025 (31)
November 2025 (36)
October 2025 (28)
September 2025 (17)
August 2025 (16)
July 2025 (11)
June 2025 (27)
May 2025 (30)
April 2025 (25)
March 2025 (31)
February 2025 (21)
January 2025 (26)
December 2024 (23)
November 2024 (30)
October 2024 (31)
September 2024 (25)
August 2024 (9)
July 2024 (2)
June 2024 (26)
May 2024 (27)
April 2024 (24)
March 2024 (25)
February 2024 (18)
January 2024 (28)
December 2023 (14)
November 2023 (8)
October 2023 (33)
September 2023 (21)
August 2023 (20)
July 2023 (15)

次のインテルメッツォでは
花束の男性を、老婆が誘惑し
胸を広げてオッ○イ出して
男性が赤ちゃんと化す。

いや、そう書きちゃうと何か全然面白くないんだけど
オッ○イが、風船のようなもので
それを取り出して、男性がむしゃぶりつくという
何だか、ちょっとカワイイのである。

インヴェントゥーアが秀抜。
大きな本を捲って、上に2人が顔を出して歌っていくのだが
本につく虫の詳細を
ビデオ投影で見事にユーモアとリアリティで描いていく。

いや、気持ち悪いんだけど（害虫ですから（笑））
これがビデオで本当に本の中に蠢いているようで
ユーモアとリアルと気味悪さが
すごく良い感じのミックス。

次のインテルメッツォが傑作で
インディアンがタバコ吸って憩いでいるところに
自由の女神が現れ
（これ、老婆役をやった人。すごい芸達者！）
アルコール飲ませて、インディアンを倒して征服しちゃう（笑）

最後の作品は
作曲ベルンハルト・ラングで、脚本はダ・ポンテ（笑）
モーツァルトのドン・ジョバンニの最後のシーン
・・・を現代音楽にした、というかパロディにした、というか
反復ばかりやってるラングらしい音楽で
爆弾で来てたりして、すごいユーモア。

最後の可愛いエピローグは、まあ蛇足だが
これで休憩なしの70分。

いや、これ、面白い。
やってる事もスゴイのだけれど
それをスゴイと感じさせず
徹底的に客を楽しませる舞台構成に
俳優の訓練とダンス・バレエの技術と
オペラの声を持ったパーフォーマーたちが見事。

こういう現代オペラなら大歓迎だわ、うん。

さて、後半は別のグループ progetto semiserio のオペラ。
これも4つから成る。

最初のトリオは面白かった。
外国人労働者のモノローグ
年配の女性の愚痴
エリート・サラリーマンの焦りまくりのパニックが
三者三様に語られて、それぞれにリアルな説得力がある。

ところが、2番目の作品で幻滅。
日本人女性がヨーロッパに来て、その疎外感に悩む、と
プログラムには書いてあったのだが

April 2023 (23)
March 2023 (27)
February 2023 (21)
January 2023 (27)
December 2022 (25)
November 2022 (26)
October 2022 (25)
September 2022 (14)
August 2022 (19)
July 2022 (12)
June 2022 (28)
May 2022 (28)
April 2022 (23)
March 2022 (27)
February 2022 (29)
January 2022 (32)
December 2021 (22)
November 2021 (30)
October 2021 (30)
September 2021 (24)
August 2021 (20)
July 2021 (23)
June 2021 (33)
May 2021 (13)
April 2021 (2)
March 2021 (4)
February 2021 (16)
January 2021 (6)
December 2020 (5)
November 2020 (5)
October 2020 (28)
September 2020 (25)
August 2020 (16)
July 2020 (4)
June 2020 (15)
April 2020 (3)
March 2020 (10)
February 2020 (18)
January 2020 (26)
December 2019 (24)
November 2019 (30)
October 2019 (24)
September 2019 (20)
August 2019 (12)
July 2019 (10)
June 2019 (22)
May 2019 (23)
April 2019 (25)
March 2019 (22)
February 2019 (16)
January 2019 (24)
December 2018 (16)
November 2018 (32)
October 2018 (23)
September 2018 (25)
August 2018 (22)
July 2018 (5)
June 2018 (21)
May 2018 (23)

桜の花のビデオ投影

(しかもあれは、チェリーの成る濃い色の桜で
日本の桜と違う！ いったい、どこで撮影したんですか?!)
その下に現れる英語とドイツ語と、ワケのわからん日本語。

大きな台を持ってきて

その上に立たせたり、寝かせたりして
大袈裟に何かやらせているのだけれど
ビデオもあまりにプロトタイプだし
日本人女性が何を悩んでいるのか
さっぱりわからん。

というか

悩める若き日本人女性イン・ヨーロッパ、というのは
こちらの人のただの偏見じゃないか？
だって、あんまりみんな悩んでいない(ような気がする)
・・・あっ、失言だったらお許し下さい。

次の作品は

オーストリアで育ったトルコ人の同性愛者が
床屋さんを殺すという(スイーニー・トッドと反対じゃん(笑))
これは、ものすごく攻撃的な作品。

テキストもクリアに聴こえてくるし

精神的なリアリティもある。
残酷な作品だが、音楽的・演劇的には非常に高い。

で、最後の BILL については

何も言うまい。

スクリーン3枚も使ってビデオ投影をして

音楽家をあちこちに移動させて
しかも数種類の楽器(雑音発生器含む)を演奏させて
巧い歌手まで使って、大掛かりな事をしているのに

あれだけ内容のない作品が出来るというのは
ある意味で、ものすごい才能なのではないだろうか。

周囲の人、かなりの人が耳を押さえてたし

(私も途中で1回だけやりました。鼓膜が痛くなったので)

現代音楽のオペラ・・・というよりは

オペラっぽい寸劇というか
こういうオペラへのアプローチもあって良いなあ。
特に前半のグループ
あの水準で別プログラムが発表される事があれば
私としては応援したい。
(後半は玉石混合である。まだまだ身勝手感が強い)

幸いながら、終わったのが23時15分だったので

地下鉄と市電で帰って来られた私に
どうぞ1クリックをお恵み下さい。



February 2016 (19)
January 2018 (23)
December 2017 (23)
November 2017 (30)
October 2017 (22)
September 2017 (21)
August 2017 (17)
July 2017 (9)
June 2017 (26)
May 2017 (28)
April 2017 (28)
March 2017 (22)
February 2017 (19)
January 2017 (27)
December 2016 (26)
November 2016 (34)
October 2016 (22)
September 2016 (22)
August 2016 (18)
July 2016 (12)
June 2016 (27)
May 2016 (26)
April 2016 (29)
March 2016 (20)
February 2016 (18)
January 2016 (20)
December 2015 (24)
November 2015 (29)
October 2015 (25)
September 2015 (18)
August 2015 (10)
July 2015 (2)
June 2015 (26)
May 2015 (28)
April 2015 (22)
March 2015 (21)
February 2015 (20)
January 2015 (18)
December 2014 (28)
November 2014 (29)
October 2014 (29)
September 2014 (16)
August 2014 (18)
July 2014 (17)
June 2014 (19)
May 2014 (27)
April 2014 (24)
March 2014 (17)
February 2014 (21)
January 2014 (15)
December 2013 (26)
November 2013 (27)
October 2013 (27)
September 2013 (13)
August 2013 (17)
July 2013 (20)
June 2013 (27)
May 2013 (27)
April 2013 (25)